

2-②-F アドバンスドコース シラバス（⑥持続可能な観光）

- 令和5年3月公開の観光庁「ポストコロナ時代における観光人材育成ガイドライン」に準拠したシラバス案です。（目次構成や内容は予告なく変更される場合があります。）

項目	内容	標準受講機関	3ヶ月（全科目学習の場合）
番号	R-NET2006	開講期	2026年2月～
科目名	DMO中核人材研修 第4回「財務戦略とCFO実務」	研修	1章（15分） 合計90分
対象	中核人材（CMO、CFO、部門責任者等）	研修形態	オンデマンド型eラーニング（LMS配信、進捗管理・本人確認付）
講師	（株）かまいしDMC代表取締役 河東英宣氏（予定） NPO法人大雪山自然学校 代表理事 荒井 一洋氏（調整中） （一社）地方創生パートナーズネットワーク 代表理事 村松知木		
研修の概要と方法	「ポストコロナ時代における観光人材育成ガイドライン」に示される観光地経営人材に求められる6つの要素のうち、「持続可能性（環境・地域共生）」を中心に学ぶ。環境保全・地域文化継承・経済的持続性の3側面から、国際基準（GSTC基準等）や国内事例を踏まえた観光マネジメント手法を解説。90分を15分×6章で構成し、理論と実践事例を組み合わせる具体的に学ぶ。		
研修生の到達目標	①持続可能な観光の概念と重要性を説明できる。②環境・社会・経済の3側面から自地域の持続可能性を評価できる。 ③DMOが主導する持続可能な観光施策を立案できる。④持続可能性をKPIに組み込んだマネジメント計画を作成できる。		
授業外学習	事前：ポストコロナ時代の人材育成ガイドライン該当章およびGSTC基準概要を読み、自地域の持続可能性課題を3点挙げる。 事後：講義で学んだ指標設定方法を参考に、自地域の環境・社会・経済KPI案を作成。		
成績評価方法	各章の確認テスト（重要用語・理解度チェック）：50% 最終評価（全章修了＋総合理解度テスト）：50%		

章	時間	タイトル	授業スケジュール（章構成・詳細）
第1章	15分	持続可能な観光の基本概念	持続可能な観光を「将来世代のニーズを損なうことなく、現在の観光需要を満たす活動」と定義。国際的枠組み（SDGs、GSTC基準）と日本の観光政策における位置づけを整理。環境・地域・経済の3側面の相互関係を解説。
第2章	15分	環境面の持続可能性	自然資源の保全（生態系保護、景観維持、資源利用抑制）、再生可能エネルギー導入、廃棄物削減・リサイクル、交通の低炭素化など。国内外のエコツーリズム事例や環境指標の設定方法を紹介。
第3章	15分	社会・文化面の持続可能性	地域文化・伝統の保護、住民の生活の質向上、観光による地域コミュニティの活性化、訪問者と住民の交流促進。文化財保護と観光活用のバランス事例。住民参画型観光の設計方法。
第4章	15分	経済面の持続可能性	地域経済循環の強化（地元調達率向上、地元雇用創出）、観光収益の地元還元モデル、季節変動リスク分散。観光消費額や雇用数など経済KPIの設定とモニタリング手法を解説。
第5章	15分	持続可能性指標とKPI設定	環境・社会・経済の3分野での測定指標例を提示。短期・中期・長期のKPI設定プロセス。KPIを観光地経営のPDCAに組み込む方法。国際基準との整合性確保とレポートの重要性。
第6章	15分	実行計画とステークホルダー連携	持続可能性戦略のロードマップ作成（現状分析→目標設定→施策計画→評価）。自治体・事業者・住民・旅行者の役割と協力体制構築。合意形成のためのコミュニケーション設計と事例紹介。